

新型コロナウイルス感染予防 制作業務ガイドライン

Ver.20210106

株式会社 大日

新型コロナウイルス感染予防 制作業務ガイドライン

はじめに

本書は新型コロナウイルス感染拡大のリスクを最小限に抑えて制作業務を行うためのガイドラインです。本書をひとつの指針とし、必要に応じて改善・更新を行い、制作業務にかかわるすべての人々の安全を優先し、よりよい制作業務を心掛けてまいります。

また、リスクを最小限に抑えるためには、クライアント・エージェンシー・制作会社・スタッフ・出演者など撮影に関わるすべてのみなさまのご協力が必要です。ご理解とご協力の程、何卒よろしくお願い致します。

リスクについて

みなさまのご協力のもと、新型コロナウイルス感染防止対策を徹底してまいります。無症状の感染者特定は困難であること、また、多人数が参加する現場ではクラスター感染の発生リスクがあるなど、感染者発生リスクはゼロにはできません。

このため、主要スタッフの感染や、使用施設の突然の閉鎖など、やむお得不い突発的な要因により、撮影などの制作業務を直前で中断せざるを得ないリスクがあること、また、こうしたリスクによる制作業務の中断、リスク対策（ダブルスタンバイなど）については、納期・予算額などに影響を及ぼす可能性があることについて、ご理解いただけますようよろしくお願い致します。

基本行動

1. 3密（密集・密閉・密接）回避、フィジカルディスタンス（2m以上）の確保
2. マスク着用・2m以内での作業時はフェイスシールドを着用
3. こまめな消毒（手指、モノ）の実施
4. 常に十分な換気を行う（窓を開ける、扇風機の使用）
5. 検温・体調確認の実施
* 過去2週間の体調確認。37.5℃以上の発熱、風邪症状（発熱、のどの痛み、頭痛、関節痛など）、呼吸器症状（咳、息苦しさ、息の吸いずらさ）、そのほかの症状（下痢、味が薄く感じる、味覚障害、目やにと充血）、味覚嗅覚異常等
* 過去2週間以内の渡航歴、新型コロナウイルス陽性者との接触がないか確認する。
* 過去2週間、同居人・職場等に体調不良・渡航歴・感染者がいないことを確認する。
* 過去に新型コロナウイルスに感染したことがあるかを確認する。
* 当日37.5℃以上の発熱、風邪症状（発熱、のどの痛み、頭痛、関節痛など）、呼吸器症状（咳、息苦しさ、息の吸いずらさ）、そのほかの症状（下痢、味が薄く感じる、味覚障害、目やにと充血）、味覚嗅覚異常等がある場合は帰宅・隔離とする。※
※帰宅・隔離の該当者には、かかりつけ医、もしくは自治体設置の相談窓口へ電話で相談するよう伝える。
(2021/1/6更新)

打合せ

- 基本的にリモートで行う。
- 対面する場合は、換気ができる広い場所を利用し、最小人数・最小時間で行う。
- 会議室入室前に手指の消毒、検温、体調確認を行う。
- 会議室は利用前後に消毒する（特に人の手が触れる場所）。
- 基本的に飲食物の提供は行わない。飲料が必要な場合は個別にペットボトル等を用意する。

オーディション・フィッティング

- 会場は換気ができる広い場所を利用し、最小人数・最小時間で行う。
- 体調チェックシートを用意し、撮影当日の体温・体調チェックを行う。
 - 過去2週間の体調確認と、同居人・職場等に体調不良・渡航歴・感染者がいないことを確認する。
- * 37.5℃以上の発熱、風邪症状（発熱、のどの痛み、頭痛、関節痛など）、呼吸器症状（咳、息苦しさ、息の吸いずらさ）、そのほかの症状（下痢、味が薄く感じる、味覚障害、目やにと充血）、味覚嗅覚異常等がある場合は帰宅・隔離とする。※
※帰宅・隔離の該当者には、かかりつけ医、もしくは自治体設置の相談窓口へ電話で相談するよう伝える。
(2021/1/6更新)
- 可能な限り、出入り口や窓を開放して常時換気できるようにする。
- 会場入室前に手指の消毒、検温、体調確認を行う。
- 基本的に1名ずつ実施する。
- 待機場所が3密にならないよう配慮する。
- 待機中はマスクを着用する。
- スタイルストが出演者に接近する必要がある場合には、マスク・フェイスガード・手袋の着用を依頼する。また手袋

装着時は作業ごと・モノごとに交換する。

- 手指、モノの消毒をこまめに行う。小道具を使用する場合はその都度消毒をする。
- 会場を使用前後に消毒する（特に人の手が触れる場所）。
- 基本的に飲食物の提供は行わない。飲料が必要な場合は個別にペットボトル等を用意する。

ロケハン

- ロケーションの洗濯機ジョンとして「広さ」と「換気」を考慮する。
- 最少箇所・最小人数・最小時間で行う。
- 手洗い、手指・モノの消毒をこまめに行う。
- 車両利用の場合は、乗車・降車時に手指の消毒を行い、座席間隔を開ける。乗車中はマスクを着用し、会話を控える。窓は常時開放し換気を行う。
- 車両の消毒作業は事前にメディックと検討の上、実施する。

撮影

- 撮影時の感染対策管理チーム
 - 感染対策管理責任者としてメディック（医療従事者）1名を配備し、プロデューサー1名を現場の総責任者とする。
 - プロデューサーは総責任者として、感染対策管理責任者の指示を尊重し、スタッフとも協議の上で、安全を第一に考えた判断を心掛ける。
- メディック（医療従事者）を原則手配し、メディカルチェックを徹底する。
 - 体調チェックシートを用意し、撮影当日の体温・体調チェックを行う。
 - 過去2週間の体調確認と、同居人・職場等に体調不良・渡航歴・感染者がいないことを確認する。
- * 37.5℃以上の発熱、風邪症状（発熱、のどの痛み、頭痛、関節痛など）、呼吸器症状（咳、息苦しさ、息の吸いずらさ）、そのほかの症状（下痢、味が薄く感じる、味覚障害、目やに充血）、味覚嗅覚異常等がある場合は帰宅・隔離とする。※
※帰宅・隔離の該当者には、かかりつけ医、もしくは自治体設置の相談窓口へ電話で相談するよう伝える。
(2021/1/6更新)
- 消毒作業は事前にメディックと検討の上、実施する。（撮影場所、控室、食事場所、トイレ等使用するすべての場所）
- 可能な限り、出入り口や窓を開放して常時換気できるようにする。
- 手指、モノの消毒をこまめに行う。そのために消毒液を複数箇所配置する。
- マスクは原則常時着用。
- 作業中でも常に2m以上の距離を保つように努める。距離を保てない場合はフェイスガードも着用する。
- 撮影参加者は必要最小限とする。
- 入口、共用エリアに消毒液を用意する。
- 定期的に換気を実施する。（窓、ドア開放、扇風機の使用）
- 撮影場所とは別に、スタッフ、出演者等の待機場所を用意する。また待機場所が3密にならないよう配慮する。
- 出演者控室は事務所関係者、ヘアメイク、スタイリスト以外は入室しない。
- ヘアメイク・スタイリストが出演者に接近する必要がある場合には、マスク・フェイスガード・手袋の着用を依頼する。また手袋装着時は作業ごと・モノごとに交換する。

- ヘアメイクが複数出演者の対応をする場合は、時間差もしくはスペースを分けて対応し、使用する用具を 1 人ごとに消毒する。

食事

- 個別の弁当を用意する。ケータリングサービスは使用しない。（調味料なども共用しない）
- 弁当は担当者が個別に配布する。（1か所に置いて取りに行かせるのはNG）
- 食事場所を決め、消毒を行う。
- 食事場所は換気を行い、密にならないよう必要に応じて時間差、もしくは場所を分ける。
- 食事の際は手指の消毒を行う
- 対面で食べない
- 飲み物は各自持参が望ましい。用意する場合は2Lペットボトルやポットのコーヒー等は利用せず、個別のペットボトルとし、各自で管理する。
- お菓子などの用意は極力避ける。必要な場合は個包装されたものとし、それぞれが触れないよう配慮する。

車両

- 車両は間隔をあけて座り、マスクを着用する。窓を開けて常に換気をする。
- 乗車・降車時に手指の消毒を行う。
- 車内で飲食はしない。水分を取る場合は個別のペットボトルとし、各自で管理する。
- 車両の消毒作業は事前にメディックと検討の上、実施する。

編集

- 必要最小限のスタッフで行う。
- 編集室使用前後に消毒を行う。
- 頻繁に換気を行う。
- 編集室入室時に手指の消毒を行う。

スタッフ別遵守事項

- 撮影・照明・録音・美術等技術スタッフ
 - 担当するスタッフしか必要機材に触らない。
 - 感染リスクを防ぐため助手は最少人数にする。
 - 個別用備品は各自で管理し、共用しない。(シーバー、イヤホン等)
 - マイクは特に注意し、使用前後に消毒する。
- ヘアメイク・スタイリスト
 - キャストに接近する場合は、マスク・フェイスガード・手袋を着用する。
 - 手袋を着用する場合は、作業ごと・モノごとに交換する。
 - 必要な時以外は2 m以上離れる。
 - 基本的に必要スタッフとキャスト以外は控室に入らない。
 - 使用スペースは、できるだけ広く換気ができるところで行う。
 - 同時に複数人を行う場合、2 m以上を確保するか間にパーテーションを立てスペースを区切る。
 - メイク道具などは1名使用ごとに消毒する。
 - 衣装は限られたスタッフしか触らない。
 - アクセサリー・眼鏡などは材質を損傷しないように気を付けて消毒する。
- 出演者
 - 複数の出演者がいる場合、待機スペースを確保し3密にならないよう配慮し換気する。
 - 複数の出演者がいる場合、1 m以内の距離で15分以上共にいると「濃厚接触者」となるため注意する。
 - 可能であれば本番以外はマスク・フェイスガードを着用する。
 - 必要スタッフ以外は出演者に近づかない。
 - 控室に飲食物を用意する場合は、個別ペットボトル、個包装の密閉されたものにする。
 - 感染予防対策上リスクの高い出演者（高齢、基礎疾患を持つ人、妊娠中の人など）の参加がある場合は事前に対策を立て十分に配慮する。(2021/1/6更新)